

主 題：モーセの不信仰 ー不従順ー

聖書箇所：出エジプト記 4章10-17節

今日は皆さんとごいっしょに、モーセを通して主は私たちに何を教えようとしておられるのか？そのことを学んでいきたいと思います。

1. モーセという人物

モーセ、皆さんよくご存じの人物です。彼の120年の生涯を40年ずつ区切ると、
 出生（エジプトの地） ⇒ 40歳（ミデヤンの地） ⇒ 80歳（出エジプトと荒野）
 ⇒ 120歳（死）

彼がどのような行動をとったのか、どのような地に赴いたのか、そのことは地図を参照してください。

1) エジプトの地にて

a. モーセの誕生

彼はエジプトの地で、レビ人の両親、アムラムとヨケベテの間に生まれました。出エジプト2：1-2「1 さて、レビの家のひとりの人がレビ人の娘をめとった。2 女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいいのを見て、三か月の間その子を隠しておいた。」、6：20「アムラムは父の妹ヨケベテを妻にめとり、彼女はアロンとモーセを産んだ。アムラムの一生は百三十七年であった。」に書かれています。彼には兄弟がありました。兄アロン、出7：7「彼らがパロに語ったとき、モーセは八十歳、アロンは八十三歳であった。」と姉のミリヤム出15：20「アロンの姉、女預言者ミリヤムはタンパリンを手に取り、女たちもみなタンパリンを持って、踊りながら彼女について出て来た。」です。兄アロンはモーセの3歳年上でした。

b. 誕生後

出2：2-9に詳しく書かれています。「2 女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいいのを見て、三か月の間その子を隠しておいた。3 しかしもう隠しきれなくなったので、パピルス製のかごを手に入れ、それに瀝青と樹脂とを塗って、その子を中に入れ、ナイルの岸の葦の茂みの中に置いた。4 その子の姉が、その子がどうなるかを知ろうとして、遠く離れて立っていたとき、5 パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た。彼女の侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みにかごがあるのを見、はしためをやって、それを取って来させた。6 それをあけると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をあわれみに思い、「これはきっとヘブル人の子どもです」と言った。7 そのとき、その子の姉がパロの娘に言った。「あなたに代わって、その子に乳を飲ませるため、私が行って、ヘブル女のうばを呼んでまいりましょうか。」8 パロの娘が「そうしておくれ」と言ったので、おとめは行って、その子の母を呼んで来た。9 パロの娘は彼女に言った。「この子を連れて行き、私に代わって乳を飲ませてください。私があなたの賃金を払いましょう。」それで、その女はその子を引取って、乳を飲ませた。」

c. 王女の息子として育てられる

モーセはパロの娘の息子として育てられたと記されています。モーセという名は出2：10に「その子が大きくなったとき、女はその子をパロの娘のもとに連れて行った。その子は王女の息子になった。彼女はその子をモーセと名づけた。彼女は、「水の中から、私がこの子を引き出したのです」と言ったからである。」とある通りです。この箇所の欄外注には『ヘブル語「モシェ」、「引き出す」意の語根「マシャ」の派生語』と書かれています。ここからモーセという名になったのです。彼はエジプトの地でパロの娘の息子としてどのような生活を送っていたのか？使徒の働き7：22-23にはこのように書かれています。「22 モーセはエジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにもわざにも力がありました。23 四十歳になったころ、モーセはその兄弟であるイスラエル人を、顧みる心を起こしました。」、モーセは40歳になったころ、同胞であるイスラエルの民がエジプト人に虐げられている姿を見ました。

d. エジプト人を殺して、ミデヤンの地へ

ある時、彼はエジプト人を殺してミデヤンの地に逃れることになったのです。そのことが出2：15に書かれています。「パロはこのことを聞いて、モーセを殺そうと捜し求めた。しかし、モーセはパロのところからのがれ、ミデヤンの地に住んだ。彼は井戸のかたわらにすわっていた。」と。

2) ミデヤンの地にて

ミデヤンの地に逃れたモーセは、

a. 祭司イテロの娘チッポラと結婚

出2：21「モーセは、思い切ってこの人といっしょに住むようにした。そこでその人は娘のチッポラをモーセに与えた。」、彼らには二人の子どもが与えられています。ゲルショムとエリエゼルです。出2：22

「彼女は男の子を産んだ。彼はその子をゲルシヨムと名づけた。「私は外国にいる寄留者だ」と言ったからである。」、出18：4「もうひとりの名はエリエゼル。それは「私の父の神は私の助けであり、パロの剣から私を救われた」という意味である。」、

b. 羊飼いとして

そして、モーセはこのミデヤンの地で羊飼いとして40年間過ごすことになるのです。この40年間はモーセにとって、この後、神がモーセをイスラエルの指導者として召すための準備の期間となりました。彼は羊飼いという仕事を通して、指導者としての資質を学ぶことになったのです。出3：1「モーセは、ミデヤンの祭司で彼のしゅうと、イテロの羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の西側に追って行き、神の山ホレブにやって来た。」

c. モーセの召命

出エジプト記3章には、モーセの召命のことが書かれています。3：10には「今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」とあります。同じことが使徒の働き7：30-34に書かれています。「:30 四十年たったとき、御使いが、モーセに、シナイ山の荒野で柴の燃える炎の中に現れました。:31 その光景を見たモーセは驚いて、それをよく見ようとして近寄ったとき、主の御声が聞こえました。:32 『わたしはあなたの父祖たちの神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である。』そこで、モーセは震え上がり、見定める勇気もなくなりました。:33 すると、主は彼にこう言われたのです。『あなたの足のくつを脱ぎなさい。あなたの立っている所は聖なる地である。:34 わたしは、確かにエジプトにいるわたしの民の苦難を見、そのうめき声を聞いたので、彼らを救い出すために下って来た。さあ、行きなさい。わたしはあなたをエジプトに遣わそう。』」、主がモーセを用いてエジプトの地にいるイスラエルの民を救い出すことをモーセに命じるのです。

3) 出エジプトと荒野にて

後半、80歳から120歳までのモーセ、それは出エジプトと荒野での生活です。そのことは出エジプト記、民数記、申命記に詳しく書かれています。

a. エジプトにて与えられた10の災害

出7-11章に書かれています。

b. 出エジプト

出12：51「ちょうどその日に、【主】はイスラエル人を、集団ごとに、エジプトの国から連れ出された。」、13：18「それで神はこの民を葦の海に沿う荒野の道に回らせた。イスラエル人は編隊を組み、エジプトの国から離れた。」、14：22「そこで、イスラエル人は海の真ん中のかわいた地を、進んで行った。水は彼らのために右と左で壁となった。」、

c. 荒野の地

d. モーセの死

彼は残念ながら、カナンの地に入ることができませんでした。彼はモアブの地で亡くなったと記されています。申命記34：1-7にこのように書かれています。「:1 モーセはモアブの草原からネボ山、エリコに向かい合わせのピスガの頂に登った。【主】は、彼に次の全地方を見せられた。ギルアデをダンまで、:2 ナフタリの全土、エフライムとマナセの地、ユダの全土を西の海まで、:3 ネゲブと低地、すなわち、なつめやしの町エリコの谷をツォアルまで。:4 そして【主】は彼に仰せられた。「わたしが、アブラハム、イサク、ヤコブに、『あなたの子孫に与えよう』と言って誓った地はこれである。わたしはこれをあなたの目に見せたが、あなたはそこへ渡って行くことはできない。」:5 こうして、【主】の命令によって、【主】のしもべモーセは、モアブの地のその所で死んだ。:6 主は彼をベテ・ペオルの近くのモアブの地の谷に葬られたが、今日に至るまで、その墓を知った者はいない。:7 モーセが死んだときは百二十歳であったが、彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。」、モアブの地は死海の東側です。モーセはいったいどのような人物であったのか？申命記の最後にこのように書かれています。34：10-12には「:10 モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼を【主】は、顔と顔とを合わせて選び出された。:11 それは【主】が彼をエジプトの地に遣わし、パロとそのすべての家臣たち、およびその全土に対して、あらゆるしるしと不思議を行わせるためであり、:12 また、モーセが、イスラエルのすべての人々の目の前で、力強い権威と、恐るべき威力とをことごとくふるうためであった。」、このような人物だったのです。

私たちが今日学ぼうとしている出エジプト記4：10-17は、ちょうど、モーセの120年の人生の中で、これからエジプトへと出て行くその寸前の出来事です。そこから学んでいきましょう。

2. モーセの不信仰

4：10「モーセは【主】に申し上げた。「ああ主よ。私はことばの人ではありません。以前からそうでしたし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。」、雄弁ではない、人に語るのが苦手だと、そういう意味です。6：12では「…どうしてパロが私の言うことを聞くでしょう。私は口ペ

たなのです。」と書かれています。確かに、モーセがこのように自己評価することは間違っただけではありません。自分のことを冷静に捉えてそのように言うことができるかもしれません。しかし、彼の間違いはどこから来たのか？それは彼の不信仰による弁解から来たということが出来ます。

同じように、ある人に主のことばがあったとき、彼はこのように答えています。それはエレミヤです。エレミヤ書 1 : 4-9 「:4 次のような【主】のことばが私にあった。:5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」:6 そこで、私は言った。「ああ、神、主よ。ご覧のとおり、私はまだ若くて、どう語っていいかわかりません。」:7 すると、【主】は私に仰せられた。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。」、モーセと同じように、エレミヤにも主のことばがあったのです。エレミヤは「私は若いのです。だから、私はあなたが命じることをすることができません。」と言います。でも、その後主のことばがありました。

私たちクリスチャン、神の人は、自分の無力さを認めることは大切です。しかし、無力な者を助けてくださる方がおられ、その方により頼む、より信頼することをしっかり覚えなければいけません。無力なこと、自分に足りないものがあること、そのことが神から与えられた働き、任務を拒む口実にはならないのです。なぜなら、神はそのことをご存じであなたに「この働きをきなさい」と言われるからです。モーセにもその通りでした。確かに、モーセは語ることを苦手としていました。でも、神はそのことをご存じで「出て行きなさい。さあ、行きなさい。わたしのことばを語りなさい。」と言われたのです。

4 : 11 「:11 【主】は彼に仰せられた。「だれが人に口をつけたのか。だれが口をきけなくし、耳を聞こえなくし、あるいは、目を開いたり、盲目にしたりするのか。それはこのわたし、【主】ではないか。」、リビングバイブルにはこのように書かれています。「人間の口を造るのはだれかね。神であるわたしではないか。」と、主はご自分が創造主、また、全知で全能なる者であると言われたのです。4 : 12 「:12 さあ行き。わたしがあなたの口とともにあって、あなたの言うべきことを教えよう。」、口の重いモーセに対して主はそのままの状態、ご自分の栄光を現わす器として用いよう、そして、モーセが語るときは彼を助けると言われているのです。同じようにリビングバイブルでは「さあ、ぐずぐず言わず、わたしの言うとおりにきなさい。ちゃんと話せるように助けてやるし、何を話すかも教えよう。」とあり、主はモーセが語るときに彼を助けると言われたのです。イエスも弟子たちに対してこのように言っておられます。マルコ 13 : 10-11 「:10 こうして、福音がまずあらゆる民族に宣べ伝えられなければなりません。:11 彼らに捕らえられ、引き渡されたとき、何と言おうかなどと案じるには及びません。ただ、そのとき自分に示されることを、話さなさい。話すのはあなたがたではなく、聖霊です。」と。

先ほど見たエレミヤ書 1 : 8-9 にはエレミヤに対してこのようなことばがありました。「:8 彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。——【主】の御告げ——」:9 そのとき、【主】は御手を伸ばして、私の口に触れ、【主】は私に仰せられた。「今、わたしのことばをあなたの口に授けた。」と。エレミヤは「私は若いのです」と言ったけれど、主は「わたしのことばをあなたの口に授けた。」と言われたのです。主は、語る事が下手なモーセに対して「あなたが語るときにわたしが語るべきことばを教えよう」と言われました。これは主の約束です。あなたを助けるという約束です。

しかし、モーセはそれに対してどのように答えているか？ 4 : 13 「すると申し上げた。「ああ主よ。どうかほかの人を遣わしてください。」、モーセの応答はこれでした。モーセはさらに弁解しています。ここに 12 節の主の約束に対してモーセの不従順を見ます。4 : 14 「すると、【主】の怒りがモーセに向かって燃え上がり、こう仰せられた。「あなたの兄、レビ人アロンがいるではないか。わたしは彼がよく話すことを知っている。今、彼はあなたに会いに出て来ている。あなたに会えば、心から喜ぼう。」、モーセの不信仰（不従順）に対して主の怒りがあったということです。

詩篇 7 : 11 には「神は正しい審判者、日々、怒る神。」とあります。この「怒る神」の欄外注を見ると「宣告を下す神」とあります。そうです、さばきを下す神です。モーセに対して主の怒りが下ったのです。ヨブ 42 : 7 には「さて、【主】がこれらのことばをヨブに語られて後、【主】はテマン人エリファズに仰せられた。「わたしの怒りはあなたとあなたのふたりの友に向かって燃える。それは、あなたがたがわたしについて真実を語らず、わたしのしもべヨブのようではなかったからだ。」、詩篇 90 : 11 にも「だれが御怒りの力を知っているでしょう。だれがあなたの激しい怒りを知っているでしょう。その恐れにふさわしく。」と書かれています。

私たちはこのような例をみことばの中からたくさん知ることが出来ます。

《例》

(1) ソロモン

あの栄華を極めたソロモンもそうでした。

(a) ソロモンの不信仰 : I 列王記 11 : 1-8 「:1 ソロモン王は、パロの娘のほかにも多くの外国の女、

すなわちモアブ人の女、アモン人の女、エドム人の女、シドン人の女、ヘテ人の女を愛した。:2 この女たちは、【主】がかつてイスラエル人に、「あなたがたは彼らの中に入って行ってはならない。彼らをもあなたがたの中に入れてはならない。さもないと、彼らは必ずあなたがたの心を転じて彼らの神々に従わせる」と言われたその国々の者であった。それなのに、ソロモンは彼女たちを愛して、離れなかった。:3 彼には七百人の王妃としての妻と、三百人のそばめがあった。その妻たちが彼の心を転じた。:4 ソロモンが年をとったとき、その妻たちが彼の心をほかの神々のほうへ向けたので、彼の心は、父ダビデの心とは違って、彼の神、【主】と全く一つにはなっていなかった。:5 ソロモンはシドン人の神アシュタロテと、アモン人のあの忌むべきミルコムに従った。:6 こうしてソロモンは、【主】の目の前に悪を行い、父ダビデのようには、【主】に従い通さなかった。:7 当時、ソロモンは、モアブの、忌むべきケモシュと、アモン人の、忌むべきモレクのために、エルサレムの東にある山の上に高き所を築いた。:8 彼は外国人の自分のすべての妻のためにも、同じようなことをしたので、彼女たちは自分たちの神々に香をたき、いけにえをささげた。」、

(b) 神の怒り(さばき) : ソロモンの罪に対して神の怒りがあったことが記されています。続く1:9-13、14、23、26を見てください。「:9 【主】はソロモンに怒りを発せられた。それは彼の心がイスラエルの神、【主】から移り変わったからである。主は二度も彼に現れ、:10 このことについて、ほかの神々に従って行ってはならないと命じておられたのに、彼は【主】の命令を守らなかったからである。:11 それゆえ、【主】はソロモンに仰せられた。「あなたがこのようにふるまい、わたしが命じたわたしの契約とおきてを守らなかったので、わたしは王国をあなたから必ず引き裂いて、あなたの家来に与える。:12 しかし、あなたの父ダビデに免じて、あなたの存命中は、そうしないが、あなたの子の手からそれを引き裂こう。:13 ただし、王国全部を引き裂くのではなく、わたしのしもべダビデと、わたしが選んだエルサレムのために、一つの部族だけをあなたの子に与えよう。」:14 こうして、【主】は、ソロモンに敵対する者としてエドム人のハダデを起こされた。彼はエドムの王の子孫であった。」、「:23 神はまた、ソロモンに敵対する者として、エリヤダの子レゾンを起こされた。彼は、自分の主人、ツォパの王ハダデエゼルのもとから逃亡した者であった。」、「:26 ツエレダの出のエフライム人ネパテの子ヤロブアムはソロモンの家来であった。彼の母の名はツエルアといい、やもめであった。ところが彼も王に反逆した。」

(2) アダム

アダムはどうだったのでしょうか？

(a) 主のことば(命令) : アダムにも主のことばがありました。創世記2:16-17にこのように書かれています。「:16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」。

(b) アダムの選択 : 彼の選択は創世記3:6「そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。」でした。アダムが取った選択は「神の命令に従わない」ことでした。

(c) 主の御顔を避ける : そして、彼らはどうしたのか？3:8「そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。」、彼らは自分たちの罪に気が付いたのです。

(d) その結果 : 3:23「そこで神である【主】は、人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。」、

(e) 主の配慮 : しかし、神の配慮があったことを私たちはみことばから知ることが出来ます。3:21「神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。」と。これは救いの予型であると言われます。このアダムの罪が「原罪」と言われるものです。そのことはパウロがこのように述べています。ローマ書5:12「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。」、5:18-19「:18 こういうわけで、ちょうどひとり人の違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、ひとり人の義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられるのです。:19 すなわち、ちょうどひとり人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとり人の従順によって多くの人が義人とされるのです。」と、まさに、アダムの罪がこのような結果を招いたのです。

(3) ヨナ

ヨナもヨナ書によって、私たちはヨナが神に対してどのような態度を取ったのか？その結果、どのようなになったのかを知っています。

(a) 主のことば(命令) : ヨナ書1:1-2「:1 アミタイの子ヨナに次のような【主】のことばがあった。:2 「立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」、

(b) ヨナの応答 (不従順) : 1 : 3 「しかしヨナは、【主】の御顔を避けてタルシシュへのがれようと、立って、ヨッパに下った。彼は、タルシシュ行きの船を見つけ、船賃を払ってそれに乗り、【主】の御顔を避けて、みなといっしょにタルシシュへ行こうとした。」

(c) その結果 : 1 : 15 「こうして、彼らはヨナをかかえて海に投げ込んだ。すると、海は激しい怒りをやめて静かになった。」

(d) 主の配慮 : 1 : 17 「【主】は大きな魚を備えて、ヨナをのみこませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。」

(4) アナニヤとサツピラ

新約聖書、使徒の働きには彼らのことが記されています。

(a) バルナバと他のキリスト者たち : 使徒4 : 34-37 「:34 彼らの中には、ひとりも乏しい者がなかった。地所や家を持っている者は、それを売り、代金を携えて来て、:35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に従っておのおのに分け与えられたからである。:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ (訳すと、慰めの子) と呼ばれていたヨセフも、:37 畑を持っていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。」

(b) アナニヤとサツピラの選択 (うそをつく) : 5 : 1-2 「:1 ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともにその持ち物を売り、:2 妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。」、彼らも自分たちの財産を売って使徒たちのところに持って来ました。しかし、それは売った全額ではなかったとみことばは記しています。自分たちの分を取っておいて残りを使徒たちのもとに持って来たのです。彼らうそをついたのです。

(c) その結果 : 5 : 5、10に記されています。「:5 アナニヤはこのことばを聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた。」、「:10 すると彼女は、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶えた。入って来た青年たちは、彼女が死んだのを見て、運び出し、夫のそばに葬った。」

このようなさばきがあったということです。

出エジプト記4 : 14

出エジプト記に戻って、4 : 14 「【主】の怒りがモーセに向かって燃え上がり、…」と、モーセが弁解するその行為を主は怒られたのです。そして、14節はこう続きます。「こう仰せられた。「あなたの兄、レビ人アロンがいるではないか。わたしは彼がよく話すことを知っている。今、彼はあなたに会いに出て来ている。あなたに会えば、心から喜ぼう。」と。4 : 27を見ると「さて、【主】はアロンに仰せられた。「荒野に行って、モーセに会え。」彼は行って、神の山でモーセに会い、口づけした。」と書かれています。「モーセよ、あなたにはお兄さんであるアロンがいるでしょ。」と、アロンは雄弁な人でした。主はモーセを助けるために兄アロンを準備されていたということです。主の配慮は完璧です。不足がありません。

出エジプト4 : 15-16

この後、15-16節で、主はアロンとモーセの役割を教えています。「:15 あなたが彼に語り、その口にことばを置くなら、わたしはあなたの口とともにあり、彼の口とともにあって、あなたがたのなすべきことを教えよう。:16 彼があなたに代わって民に語るなら、彼はあなたの口の代わりとなり、あなたは彼に対して神の代わりとなる。」、このことに関して、出7 : 1-2にはこのように書かれています。「:1 【主】はモーセに仰せられた。「見よ。わたしはあなたをパロに対して神とし、あなたの兄アロンはあなたの預言者となる。:2 あなたはわたしの命じることを、みな、告げなければならない。あなたの兄アロンはパロに、イスラエル人をその国から出て行かせるようにと告げなければならない。」と、モーセはアロンにとって神の代弁者であり、アロンはモーセの預言者となると、主はモーセとアロンにこのような働きを与えられたのです。

出エジプト4 : 17

そして、17節「あなたはこの杖を手に取り、これでしるしを行わなければならない。」、この後、主がエジプトの地で為される様々なしるしが記されています。主はモーセに「この杖を手に取り、」と言われていました。このとき、モーセは羊飼いでした。羊飼いは「杖」が必要でした。羊を御するために、杖をもって羊を守り、羊の群れを導いたのです。そして、この「杖」ということばは聖書には一貫して「権威の象徴」として使われています。出エジプト4 : 20には「そこで、モーセは妻や息子たちを連れ、彼らをろばに乗せてエジプトの地へ帰った。モーセは手に神の杖を持っていた。」と「神の杖」とあります。民数記24 : 17「私は見る。しかし今ではない。私は見つめる。しかし間近ではない。ヤコブから一つの星が上り、イスラエルから一本の杖が起こり、モアブのこめかみと、すべての騒ぎ立つ者の脳天を打ち砕く。」

アモス書の1 : 5、8には「:5 わたしは、ダマスコのかんぬきを折り、アベンの谷から、王座についている者を、ベテ・エデンから、笏を持っている者を断ち滅ぼす。アラムの民はキルへ捕らえ移される」と【主】は仰せられる。「:8 わたしはアシュドデから、王座についている者を、アシュケロンから、笏を持っている者を断ち滅ぼす。わたしはエクロンにわたしの手を向け、ペリシテ人の残った者を滅ぼす」と神である主は仰せられる。」

「王座についている者」ということばが出て来ます。このことばの欄外注を見ると『直訳「杖を持つ者」』とあります。王位に就いている者は「杖を持つ者」だと言うのです。

創世記49：10では「王権」ということばが出て来ます。「王権」の直訳は「杖」です。「王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロが来て、国々の民は彼に従う。」「杖」、権威の象徴、神の力の象徴である「神の杖」をもって出て行くようにと、主はモーセに言われたのです。

この主の命令に従ってモーセはこの後エジプトの地へ行き、イスラエルの民を主が約束されたあのカナンの地へ導いていこうとするのです。4：18－20「18 それで、モーセはしゅうとのイテロのもとに帰り、彼に言った。「どうか私をエジプトにいる親類のもとに帰らせ、彼らがまだ生きながらえているかどうか見させてください。」イテロはモーセに「安心して行きなさい」と答えた。：19 【主】はミデヤンでモーセに仰せられた。「エジプトに帰って行け。あなたのいのちを求めていた者は、みな死んだ。」：20 そこで、モーセは妻や息子たちを連れ、彼らをろばに乗せてエジプトの地へ帰った。モーセは手に神の杖を持っていた。」、

さて、確かに、4：10－17はこのような所で終わっていますが、私たちはここから大切なことを学ぶことができます。

3. 私たちが教えられること

1) 神はどんなお方か

A. 創造主 : 4：11で主は「だれが人に口をつけたのか。…」とされています。私たちの創造主です。すべてのものを造られた神です。

創世記1：1「初めに、神が天と地を創造した。」

詩篇33：6「【主】のことばによって、天は造られた。天の万象もすべて、御口のいぶきによって。」

詩篇104：24「【主】よ。あなたのみわざはなんと多いことでしょう。あなたは、それらをみな、知恵をもって造っておられます。地はあなたの造られたもので満ちています。」

詩篇139：13「それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。」

イザヤ44：24「あなたを贖い、あなたを母の胎内にいる時から形造った方、【主】はこう仰せられる。「わたしは万物を造った【主】だ。わたしはひとりで天を張り延ばし、ただ、わたしだけで、地を押し広げた。」

マタイ19：4「イエスは答えて言われた。「創造者は、初めから人を男と女に造って、」

使徒14：15「言った。「皆さん。どうしてこんなことをするのですか。私たちも皆さんと同じ人間です。そして、あなたがたがこのようなむなしいことを捨てて、天と地と海とその中にあるすべてのものをお造りになった生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えている者たちです。」

すべてのものを造られた主、この主は私たち人間を霊的に新しく造ることのできるお方です。パウロはⅡコリント5：17で「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と語っています。

B. 全知・全能なるお方

2：14「…「あなたの兄、レビ人アロンがいるではないか。…」

a) 全知 : 主はすべてのことを知っておられました。モーセの口が重いこと、アロンが雄弁であることを、すべて知っておられたのです。全知なるお方、それは、神はいつでも、すべての事柄とすべての人について、すべてのことを知っておられるという意味です。そして、神は過去も現在も未来もすべてを知っておられます。詩篇139：1－6「1 【主】よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。：2 あなたこそ私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。：3 あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。：4 ことばが私の舌にのぼる前に、なんと【主】よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。：5 あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の上に置かれました。：6 そのような知識は私にとってあまりにも不思議、あまりにも高くて、及びもつきません。」

神学者J・I・パッカーはその著書の中で「全知」についてこのように語っています。「キリスト者にとって神が全知なるお方であると知ることは、自分自身が今まで神に忘れられることがなく、現在も、そして、将来においても、神は約束に従って自分のことを配慮してくださるという確信を与える（イザヤ40：27－31）。しかし、キリスト者でない者にとっては、神の普遍的な知識という真理は非常に恐ろしいものに違いない。なぜなら、このことは人が神の目から自分自身も、また、自分の罪も隠すことができないということを思い出させるからである（詩篇139：7－12、94：1－11、ヨハネ1：1－12）。」と。神が全知であるということは、私たち人間が隠しおおせるものは何一つないということを教えているのです。

b) 全能 : 何でもおできになるお方です。神の全能、それは神の知恵と善性によって行おうとするすべてのことを行なう力があるということです。イエスはマタイ19：26でこのように言われました。「イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」と。他の箇所も見ましょう。

ヨブ記 42 : 2 「あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。」

創世記 17 : 1 「アブラムが九十九歳になったとき【主】はアブラムに現れ、こう仰せられた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。」、「全能の神」のヘブル語は「エル・シャダイ」。

Ⅱコリント 6 : 18 「わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。」、「全能の神」のギリシャ語は「キュリオス・パントクラトル」です。

エレミヤ 32 : 17 「ああ、神、主よ。まことに、あなたは大きな力と、伸ばした御腕とをもって天と地を造られました。あなたには何一つできないことはありません。」

私たちはこの出エジプト記 4 章から、私たちの神はどのような方であるのか？それは創造主であり、全知であり全能なるお方であるということのみことばから知ります。

2) 神の為さること

そして、神が何を為されるのか？そのことも教えられます。

A. 私たちを用いてくださる 4 : 12、16

4 : 12 には「さあ行け。…」とあります。また、16 節にはモーセとアロンの働きが記されています。「彼があなたに代わって民に語るなら、彼はあなたの口の代わりとなり、あなたは彼に対して神の代わりとなる。」

a) 使徒たちの召命

イエスが 12 使徒たちを召されたとき、どのようなことばを用いられたのでしょうか？マタイ 4 : 19 「イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」、マルコ 2 : 14 「イエスは、道を通りながら、アルパヨの子レビが収税所にすわっているのをご覧になって、「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって従った。」、ルカ 5 : 27 「この後、イエスは出て行き、収税所にすわっているレビという取税人に目を留めて、「わたしについて来なさい」と言われた。」、ことばは同じです。「わたしについて来なさい」です。

b) 救いの目的

私たちが救われたのはなぜでしょうか？私たちを救った目的を神はお持ちなののでしょうか？私たちが単に永遠のいのちを得る、そのことだけで救われたのでしょうか？それも大切なことです。しかし、神には私たちを救った目的があったということを、私たちはみことばから知ることが出来ます。私たちが「主のしもべ」として仕える、そのために救いに与ったのです。パウロはローマ書 6 章で、あなたがたはかつては罪の奴隷であったけれど、今は従順の奴隷、義の奴隷となったと教えています。6 : 17-18 「:17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、:18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」、同じパウロはエペソ 2 : 10 では「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」と言っています。マタイ 5 : 16 には「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」とあり、私たちの良い行いを見て周りの人たちが神をあがめる、主の証をする者として私たちは救われたと教えます。Ⅰコリント 6 : 20 「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」、私たちが代価をもって買い取られたのは、主の栄光を現わすためだと書かれています。また、パウロはローマ 6 : 13 で「また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」と教えています。このように、私たちが救われたことには神の確かな目的があったことを、私たちはみことばから知ることが出来ます。

c) 私たちの正しい応答

それはただ一つ「忠実」です。マタイ 25 : 21 には忠実なしもべのことが書かれています。「その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんのお金を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』」と。また、私たちが今、近藤牧師から講解説教を受けている黙示録には「死に至るまで忠実でありなさい。」と教えています。2 : 10 「あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけません。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちがを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。」。そして、パウロはこのように教えています。Ⅰコリント 4 : 1-2 「:1 こういうわけで、私たちを、キリストのしもべ、また神の奥義の管理者だと考えなさい。:2 この場合、管理者には、忠実であることが要求されます。」。私たちを用いてくださる神に対する私たちの正しい応答は「忠実」です。

B. 私たちを助けてくださる

そして、神は私たちを用いてくださるだけでなく、私たちを助けてくださいます。主の配慮があると

ということです。4：14「…「あなたの兄、レビ人アロンがいるではないか。わたしは彼がよく話すことを知っている。今、彼はあなたに会いに出て来ている。あなたに会えば、心から喜ぼう。」と、モーセに兄アロンを準備されたのは神です。

a) 助け主である

主ご自身が助け主であることを私たちはみことばから知ることが出来ます。ヨハネ14：16、26「:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」「:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」、ヨハネ15：26「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」、助け主、イエスは自分が天に帰ったならあなたがたに助け主を送る、それは「聖霊なる神」と言われました。聖霊なる神は私たちひとり一人のうちに住まわれているとみことばは教えています。その聖霊なる神が私たちを助けてくださるのです。

ヘブル13：6「そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましょう。」、「」内は詩篇118：6からの引用です。

ヘブル4：16「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」

ローマ8：26「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。」

b) 主の配慮がある

私たちには兄弟姉妹が与えられています。私たちを助けるために、私たちの周りには兄弟姉妹が与えられているのです。Iテサロニケ5：11、14にはこのように書かれています。「:11 ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」「:14 兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。」、私たちに兄弟姉妹が与えられていること、それはお互いに励まし合い、助け合い、互いに徳を高め合うためであるとみことばははっきりと教えています。

ヘブル10：25「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

ローマ16：1-2「:1 ケクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します。:2 どうぞ、聖徒にふさわしいしかたで、主にあってこの人を歓迎し、あなたがたの助けを必要とすることは、どんなことでも助けてあげてください。この人は、多くの人を助け、また私自身をも助けてくれた人です。」Iペテロ4：10「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」

使徒20：34-35「:34 あなたがた自身が知っているとおりに、この両手は、私の必要のためにも、私とともにいる人たちのためにも、働いて来ました。:35 このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです。」

c) 私たちの正しい応答

これに対する私たちの正しい応答は、この「主の助けがあることに信頼すること」だけ、より頼む、このことだけです。パウロはIIコリント12：7-10でこのように言っています。「:7 また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。:8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。:9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。:10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」、パウロは「私が弱いときにこそ、私は強いからです。」と、自分が弱いときこそ主により頼んだ、そのことによって「私は強い」と言います。これがパウロの言明、証です。

ローマ10：11「聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」、「」内はイザヤ書28：16からの引用です。

イザヤ50：10「あなたがたのうち、だれが【主】を恐れ、そのしもべの声に聞き従うのか。暗やみの中を歩き、光を持たない者は、【主】の御名に信頼し、自分の神に投げ頼め。」

詩篇 40 : 4 「幸いなことよ。【主】に信頼し、高ぶる者や、偽りに陥る者たちのほうに向かなかつた、その人は。」

私たちは今日、出エジプト記 4 : 10 - 17 からともに学びをしました。私たちが教えられたことは、私たちには主から務めが与えられた。私たちは自分には力がないこと、あるいは、自分に時間がないこと、自分はそのような者ではないということを理由に、主の召しを断つてはいけないということです。なぜなら、主はそのようなひとり一人を覚えておられるのです。その上で「これをしなさい」と言われるのです。私たちが応答することばはただ一つだけではありませんか？「はい」です。これしかないのです。私たちは今日、また心新たに主の前に立って「どうか、私を用いてください。私はこのように力のない者です。でも、私は喜んであなたの務めに励みます。」と告白しようではありませんか。

《考えてみましょう》

1. あなたがモーセなら、主にどのように応答しますか？
2. 主はあなたのすべてを知っていると思いますか？
3. あなたを用いようとする主にどのように答えますか？
4. あなたにとって主の助けは必要ですか？